

特集 コロナ社会のふくしボランティア学習の価値

巻頭言/野尻紀恵

アプローチ1 実践に活かす方途を見いだす

●論考・調査・報告

- ①「コロナ×ゆらぎ×ボランティアの価値」の問い直し
/妻鹿ふみ子
- ②コロナ禍におけるボランティア活動から見えてきたこと
/堤 拓也
- ③排除・同質化・リモート化する社会における福祉教育・ボランティア学習を考える/渡邊一真

アプローチ2 導入のヒントを得る

◆実践事例

- ①コロナ禍の地域連携で学校の伝統行事は甦った～山形一中開校以来の伝統行事「体力別遠足」～/田中 克
- ②コロナ禍で気づかされた福祉教育の展開～新たな生活様式に対応した地域福祉実践からの気づき～/小笠原志朗
- ③コロナ禍で実装した「デジタル・リフレクション」の活用事例～学生と教員の授業コミュニケーションの在り方をめぐって～/田村禎章
- ④『想いをかたちに』コロナやからって、立ち止まってられへんし。～コロナ下でのボランティア体験プログラムは進化し続ける！

～/大阪府ボランティア・市民活動センター

◆NPO/社会福祉法人の挑戦

- ①コロナ禍での福祉教育への取組/岩崎好宏
- ②宮城発防災ゲーム教材の開発/菅原清香

アプローチ3 学校現場のリアルを可視化する

■わたしの指導案

- ①当事者と共に探究する“見えない”が見えてくるバリア
フリー学習～授業プラン「聞いて触ってしあわせさがし」に
こめた全盲講師の眼～/渡邊健一
- ②高校福祉科における学習指導案の要点～観点別学習状況の
評価の4観点から3観点への整理ポイント～/小澤登生男

■子どもを育む多職種協働

災害支援からつながるICTを活用した福祉教育実践
/新崎国広・新宅太郎

■高大連携事業

高大連携による福祉の学び [その2] 高校側からみた高大連携
実践/茶木正幸

アプローチ4 学びの多様性から福祉と教育の接近性を吟味する

◎ふくし原論

〈ふくし〉を実質化する福祉教育・ボランティア学習とは
/松岡広路

◎ふくし最前線

社会福祉協議会が子ども食堂を支援し、協働する意義について
～社協が子ども食堂支援に取り組む4つの志向～/所 正文

アプローチ5 特集テーマの広がりをつかえる

◇図書紹介

- ①木村博史『オンラインシフトの教科書』/田村禎章
- ②樋口直美『「できる」と「できない」の間の人』/奥山留美子
- ③東畑開人『聞く技術 聞いてもらう技術』/楠 聖伸
- ④松本すみ子『身近な社会課題に挑むメンタルヘルス福祉教育』
/渡邊一真

◇イベント・動向

日本福祉教育・ボランティア学習学会第29回新潟大会の案内

アプローチ6 「ふくし」の問いを当事者との対話から深める 口ふくし対話「この人と語る」

コロナ禍の不安に寄り添い、地域福祉活動について考える機会
をつくる～大阪市社協『集まれなくてもつながる方法』の取組
～/田淵章大・上野山裕士

巻末言/渡邊一真